

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：荒瀬 美和

事業の概要

事業名	高規格ICアクセス 一般道道山花鶴丘線	事業区分	地方道	事業主体	北海道
起終点	自：北海道釧路市山花 至：北海道釧路市山花	延長	0.9 km		
<p>事業概要</p> <p>一般道道山花鶴丘線〔釧路空港IC（仮称）アクセス〕は、高規格幹線道路（北海道横断自動車道黒松内釧路線）の阿寒IC～釧路西IC間の整備に合わせた事業であり、阿寒IC～釧路西IC間のほぼ中間に新たなインターチェンジを追加するものである。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 高規格幹線道路と「釧路空港」とのアクセス向上を図ることによる観光客の利便性向上など観光振興への寄与。 IC周辺の地域から高次医療施設までの救急搬送時間の短縮。 津波発生時における迅速な救護・啓開活動に必要な輸送路の確保。 					
全体事業費	7.9億円		計画交通量	1,700台/日	
<p>事業概要図</p>					

事業評価結果

費用便益分析	B/C	4.5	総費用：8.4億円 （事業費：7.0億円 維持管理費：1.4億円）	総便益：3.8億円 （走行時間短縮便益：2.6億円 走行経費減少便益：9億円 交通事故減少便益：2.2億円）	基準年：令和2年	
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=4.9 (交通量 +10%)	B/C=4.0 (交通量 -10%)		
			事業費変動 B/C=4.1 (事業費 +10%)	B/C=4.9 (事業費 -10%)		
			事業期間変動 B/C=4.3 (事業期間 +20%)	B/C=4.5 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	新たな道路ネットワークが構築されることにより、交通の転換が見込まれることから、交通混雑の緩和が期待される。		
		事故対策	○	新たな道路ネットワークが構築されることにより、交通の転換が見込まれることから、交通量の減少による安全の確保が期待される。		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	IC周辺の地域から高次医療施設までの救急搬送時間の短縮。		
		地域経済	○	直近にインターチェンジができることによる釧路港の背後に広がる工業地域への企業誘致等の促進。		
		災害	◎	津波発生時における迅速な救護・啓開活動に必要な輸送路の確保。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	高規格幹線道路と「釧路空港」とのアクセス向上を図ることによる観光客の利便性向上など観光振興への寄与。			
事業実施環境	○	令和2年10月16日に北海道横断自動車道黒松内釧路線と道道山花鶴丘線との連結について、高速自動車国道法第11条の2第2項の規定に基づき許可された。				

採択の理由

事業主体である北海道が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が4.5と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、高規格幹線道路と空港とのアクセス強化、高次医療施設までの救急搬送時間の短縮、救護・啓開活動に必要な輸送路が確保されるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業は令和3年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

関係する地方公共団体等の意見
北海道釧路地方総合開発促進期成会より釧路空港と北海道横断自動車道のアクセスを強化する追加インターチェンジの設置を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
北海道の公共事業評価専門委員会において、国費予算要望を行うことは妥当であるとされた。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。